

和の摩擦



① 設計手法



② 私たちの和の表現



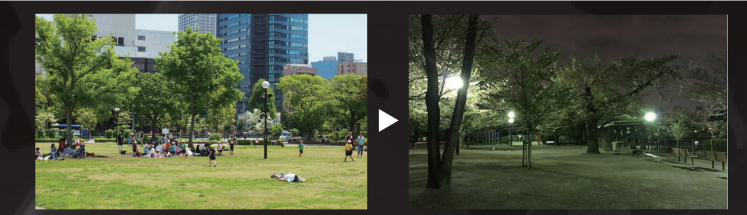
本提案は、「和」を単に寺社や庭園といった日本的な風景に見られる視覚的な意匠として捉えるのではなく、それらを生み出した日本人固有の美的感覚や感性に本質を見出すものである。遺伝子的とも言える感性の中に宿る“和”を読み取り、それを建築空間として現代に再解釈・表現することを目指す。

—— 感性による和的要素の抽出を起点とする ——

③ 敷地



④ 和を見出した原体験



本提案の根幹となる原体験は「夜の公園」だ。そこは賑わう昼間とは異なり、暗闇とわずかな自然の音が際立つ空間で、自分だけが存在しているような感覚に包まれる。寂しさにどこか心地良ささえ感じる。五感が研ぎ澄まされ、環境と自分が一体となるような没入感を得たその体験に、和の感性の本質を見出す。

—— 夜の公園から和の感性の本質を見出す ——